

—— 淑徳で過ごした日々

福島 淑徳では、素晴らしい友達に囲まれ刺激を受けながら、どんな大人になりたいのか、何をやりたいのかを考えることができます。また、目標に向かって、身近な友達と切磋琢磨して全力で邁進できる、そんな環境が淑徳にはあります。

上田 部活と勉強を両立している人が多かったですね。途中で中断することなく部活や好きなことに打ち込むことができました。私は好きな読書やスポーツもしっかり楽しんだし、密度の濃い友達関係を築きました。高校ではバドミントン部でしたが、運動すると心も元気になるし、夜もしっかり眠れましたね。

高橋 淑徳は行事にも全力で取り組む校風があります。合唱コンクールやスポーツ大会などではクラスの団結力が強く、勉強ばかりではなく、メリハリのある楽しい学校生活を送ることが出来ました。

鈴木 長期休暇中の講習は、様々なレベルや志望校に合わせた授業を開講しており、レベルアップすることができます。また、個性的な仲間が集う学校です。時に競い合い時に協力して、さまざまな化学反応を起こしつつ、人間的に成長することができますはず。

福永 淑徳は自分の「好き」を見つけられる場所だと考えています。授業を受ける中で、「自分は数学とか物理が好きなんだなあ」とか「理科の実験をするのが好きなんだなあ」と感じていました。そして大学に入った今では、その「好き」に影響され、専門は数理物理や経済学に応用できる数学に絞り、サークル活動も科学の面白さを伝える活動（サイエンスコミュニケーション）

をしています。自分は「好き」を思いっきり追求できる環境に身を置いて毎日を本当に楽しく過ごしています。

—— 大切な仲間とのつながり

上田 「仲がいい」では表しきれないような友情が芽生えたと思います。今はそこまで頻繁には連絡を取らないものの、会ったときには昔と同じように話せる友人がいるというのは、とても得難いことでした。

福永 今淑徳の記憶を思い起こすと、クラスメイトとの記憶が一番出てきますね。僕がいた東大選抜クラスは一種ファミリーみたいな感覚さえ感じます。授業中に先生のことをいじったり、休み時間中にふざけあったり、何気ないやりとりや会話の方が記憶に残ってたりしますね。色々思い出していたら淑徳時代に戻りたくなっちゃいました。(笑)

高橋 大学に進学した今でも頻繁に連絡を取り合ったり、食事に行ったりする友人たちと出会えたこと。行事はそれぞれに思い出がありますが、体育祭で自分の所属する冬組が優勝した瞬間は一番印象に残っています。

—— 文武両道の学校生活

福島 バドミントンと勉強を頑張りました。バドミントンも勉強も、良い結果が得られたこともあれば、うまくいかず苦しんだこともありました。今となってはどれも良い思い出です。そして、全てがうまくいったわけではないけれども、苦しいときも頑張りが続けたからこそ、後悔のない時間を過ごすことができたのだと思います。

福永 文化祭のときに部活動（科学同好

東大生 インタビュー

2010年以降の東大合格者は
累計12名になりました。

最難関に挑戦し、
突破した卒業生たちは、
どのような淑徳生
だったのでしょうか。

福永 康輝 君
2018年卒業

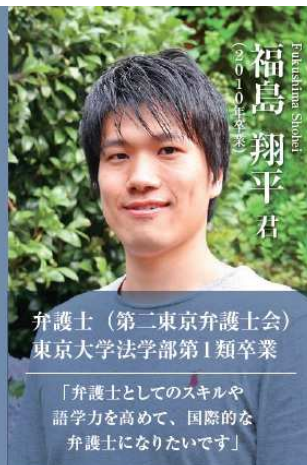
東京大学 教養学部
統合自然科学科3年

「経済学 × 数学の研究者か、
科学教育関連事業立ち上げかの
2択で迷っています」

高橋 直央 君
2019年卒業

東京大学 文科2類2年

「最先端の経済学の
知見が活かせる仕事に
就くことが目標です」



福島 翔平 君
2010年卒業

弁護士（第二東京弁護士会）
東京大学法学部第1類卒業

「弁護士としてのスキルや
語学力を高めて、国際的な
弁護士になりたいです」



上田 蒼さん
2019年卒業

東京大学 文科1類2年

「法学部で身につける
論理的思考力を活かせる
職に就きたいです」



鈴木 亮 君
2010年卒業

東京大学 理科1類1年

「夢は、宇宙や素粒子に関わる
研究機関への就職です」

会)で、手作りプラネタリウムを作ったことはとても記憶に残っていますね。中1のときに先輩たちが作っていたのを見て、密かに憧れていたのが、ネットで資料を色々調べながら、高2のときに素人ながらドームの設計と投影機の作成を全部やりました。今考えたらよく頑張っていたなと思いますね。(笑)

上田 高校生になって入ったバドミントン部の活動は思い出深いです。中学の時は文化部だったため、バド部名物の1学期の修練はかなりこたえましたが、それを乗り越えたことで生涯続けたいと思えるスポーツと友人に出会えたり、自分もやれればできるんだと思えるようになりました。大学のサークルもバドミントンを選んで毎日活動しています。運動することでストレスを発散するというのも淑徳で学びました。

—— 淑徳で学んだこと

福島 バドミントンや勉強に全力で取り組む中で、目標を立て、その目標を達成するためには何が必要かを考え、そして、実行する。実行した結果を踏まえて反省し再度必要な行動を考える、この作業を無意識で行っていました。この考え方は、大学時代に学業を修める場面だけでなく、今でも仕事やそれ以外の場面でも、とても役に立っています。

福永 やっぱり、淑徳にいた頃から勉強が好きという性に合っていたので、とことん頑張ったような気がしますね。数学の先生からJJMO(日本ジュニア数学オリンピック)を紹介されて、クラスの数学が好きで何人かで予選を受けたのを覚えてます。結果は惨敗でしたが。(笑)とにかく在学中はずっと、理数系の科目は何か何でも全部理解してやるという意気込みで勉強

していましたね。

高橋 計画性をもって物事を進めること。計画的に進める勉強の仕方を形成していったことは、勉強だけでなくアルバイトや大学の学園祭など、様々な場面で役に立っていると感じています。

鈴木 やはりと言うべきか、勉強を頑張りました。僕は高校2年生の春頃に東大に行くことを決めたので、そこから約二年間、一生涯懸命に勉強し続けました。その結果が今の生活に繋がっていると思うと、悪くない選択だったと思います。

—— 受験生へ向けたメッセージ

福島 目標に向かって、身近な友達と切磋琢磨して全力で邁進できる、そんな環境が淑徳にはあります。

福永 とにかく「好き」なものならとあえず頑張ってみよう、という気になるのは誰にでも経験があるのではないのでしょうか。そんな将来に生きる自分の「好き」を見つけられます。

上田 自分がやりたいことを、自由にやれる学校。先生方や授業、部活をいい意味で(!)利用してくれたらなあと思います!

高橋 あともうひと踏ん張りして、あと一歩先の、あとワンランク上の目標を目指しましょう! きっと達成できるし、後悔はしないはずですよ。

鈴木 個性的で親しみやすい仲間達と、いつでも親身になってくれ、頼りになる先生方。このような素晴らしい環境が整っているところはそうないと思います。ぜひ淑徳に入って最高の青春を送ってほしいと思います。